



38 海野勝珉《浪に鷹図花瓶》

明治四十二年（一九〇九）

銀、彫金、象嵌

各径一八・〇 高三八・〇

激しくうねり打ち寄せる波のなか海上を悠然と飛翔する姿と、岩上に降り立ち一本足で体を休める様子の二羽のタカを、それぞれの花瓶に一羽ずつ配し金や四分一、赤銅など色味の異なる金属を象嵌して表す。本作には彩色された下図（東京藝術大学所蔵「海野家資料」）が知られているが、タカの羽の表裏や部位ごとの色合いや質感の違いは、巧みな象嵌と線彫によって本作の方がより緻密に表されている。

作者の海野勝珉は水戸に生まれ、水戸金工の流れをくむ彫金家である。維新後に東京へ出て、博覧会への出品に取り組むかたわら加納夏雄に師事、東京美術学校教授、帝室技芸員などを歴任、明治期の彫金界の代表的な名工として知られる。本作は明治四十二年七月に日本金工協会が開催した第六回競技会に出品され金牌を受賞。成形は長養齋藤本萬作が担当した。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

鳥の楽園 — 多彩、多様な美の表現

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 68

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十七年三月二十一日発行

© 2015, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonaru Shozokan